

<b>1. プログラム名称</b>
下越病院総合診療専門医専門研修プログラム
<b>2. 専攻医定員</b>
1 学年あたり 2 名
<b>3. プログラムの期間</b>
( 3 ) 年間
<b>4. 概要</b>
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>基幹施設である下越病院は地域の方々からの資金をもとに 1953 年に診療所として開設し、全日本民主医療機関連合会（民医連）に加盟し、働く人々の医療機関として歩んできた。1976 年に 100 床の下越病院を開院し、1979 年から初期研修医を受け入れてきた。地域の方と一緒に保健予防活動や健康増進活動に力を入れ、差額室料をとらないなど、地域に根ざした無差別平等の医療活動を展開し、旧新津医療圏の中核的な病院としての役割を果たしている。災害拠点病院に指定されており、DMA T（災害派遣医療チーム）を保有している。総合診療専門研修 I を提供する、ながおか医療生協は、長岡市と連携を強化し、「医療・介護とともにいい地域を提供する」ことを目標に医療・福祉のまちづくりに取り組んでいる。ときわ診療所は新潟地震の支援を契機に設立された診療所であり、新潟市内でも経済的に厳しい住民層となっている。関連する領域である精神科・産婦人科も地域に密着した病院及びクリニックで構成している。救急研修の場である新潟大学医歯学総合病院は新潟県の基幹災害拠点病院に指定されている。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>無差別平等の立場に立ち、地域を知り、地域で果たすべき役割を自覚し、住民・患者に寄り添って医療活動を行うこと、地域の健康増進に貢献することができる医師を養成することを理念とし、様々な職種と連携し、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮し、(1) 診療所を主体的に担える力量を獲得する、(2) 病院総合医として力量を獲得する、ことを研修目標とする。</p>
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修中も定期的に基幹施設で外来研修を行う。</li> <li>・地域の開業医との共同してのカンファレンス（CC、CPC、OCC）</li> <li>・経験省察研修録（ポートフォリオ）の作成指導</li> <li>・モーニングカンファレンス</li> <li>・病棟でのコメディカルスタッフとの合同カンファレンス</li> </ul>

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	施設名	下越病院												
	領域	内科												
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	施設名	下越病院									新潟大学医歯学総合病院高度救急救命センター			
	領域	総合診療専門研修Ⅱ						小児科			救急科			
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	施設名	下越病院(新津信愛病院・とくなが女性クリニック・かえつクリニック)						ながおか生協診療所						
	領域	その他(選択研修)						総合診療専門研修Ⅰ						

特記事項 ( )

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ ( 6 ) カ月			総合診療専門研修Ⅱ ( 6 ) カ月			
領域別 研修	内科 ( 12 ) カ月	小児科 ( 3 ) カ月	救急科 ( 3 ) カ月	その他 ( 6 ) カ月			

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合(例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など)、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるべき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のべき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

<b>5. 準備が必要な研修項目</b>	
<b>地域での健康増進活動</b>	
実施予定場所（新潟勤労者医療協会・健康友の会、ながおか医療生活共同組合等を含む地域住民	）
実施予定の活動（健康班会・相談会での講師活動や健康チェック、保健学校・健康講話の講師等	）
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか	
（ 総合診療研修 I、II、内科、小児科	）
<b>教育（学生、研修医、専門職に対するもの）</b>	
実施予定場所（下越病院、ながおか生協診療所、生協かんだ診療所、ときわ診療所他	）
実施予定の活動（医学生に密着しての実習指導、初期研修医への研修指導、心肺蘇生等の各種レクチャー	）
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか	
（ 研修 I・II、内科、小児科	）
<b>研究</b>	
実施予定場所（新潟大学総合地域医療学講座	）
実施予定の活動（例：新潟市秋葉区の住民健康調査を行い、健康の社会的要因・資源の活用等を研究する	）
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか	
（ 総合診療研修総診 I・II、内科、小児科	）
<b>6. 専攻医の評価方法（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</b>	
※形成的評価と総括的评价を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。	
<b>形成的評価</b>	
■研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する（頻度：1回/月	）
■経験省察研修録（ポートフォリオ）作成の支援を通じた指導を行う（頻度：1回/月	）
■作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）の発表会を行う（頻度：2回/年 参加者の範囲：全職員	）
■実際の業務に基づいた評価（Workplace-based assessment）を定期的実施する（頻度：1回/週	）
■多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する	
■年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する	
■ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的支援するメンタリングシステムを構築する	
■メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する	
<b>総括的评价</b>	
■総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。	
■内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム（Web 版研修手帳）による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。	
■3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する	
■3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する	
■以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する	
(1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 12 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている	
(2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している	
(3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している	
なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する	

<b>研修修了認定の方法（総合的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）</b>	
修了判定会議のメンバー	
<input checked="" type="checkbox"/> 研修プログラム管理委員会と同一 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
修了判定会議の時期（ 3年次の3月 ）	
<b>7. プログラムの質の向上・維持の方法</b>	
<b>研修プログラム管理委員会</b>	
委員会の開催場所（ 下越病院内 ）	
委員会の開催時期（ 5月 10月 12月 ）	
<b>専攻医からの個々の指導医に対する評価</b>	
評価の時期（ クール最終時 /最低6ヶ月1回 ）	
評価の頻度（ 同上 ）	
評価結果の利用法（プログラム統括責任者から指導医にフィードバックを行う）	
<b>研修プログラムに対する評価</b>	
評価の時期（ クール最終時 /最低6ヶ月1回 ）	
評価の頻度（ 同上 ）	
評価結果の利用法（ 専門研修管理委員会において随時プログラムの向上に役立てる ）	

<b>8. 専門研修施設群</b>	
基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））	
<input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。	
研修施設群全体の要件。	
<input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上/月、のべ訪問診療件数 20件以上/月である。 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名/月以上、入院患者総数 20名以上/月である。 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上/月である。 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上/年である。	
地域医療・地域連携への対応	
<input type="checkbox"/> へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。 具体的に記載： 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月	
<input type="checkbox"/> 基幹施設がへき地※に所在している。 <input type="checkbox"/> へき地※での研修期間が2年以上である。 具体的に記載： 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月 施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月	
※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照 <a href="http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm">http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm</a> <a href="http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf">http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf</a>	

<b>9. 基幹施設</b>	
研修施設名	下越病院
所在地	住所 〒956-0814 新潟市秋葉区東金沢1459番地1 電話 0250-22-4711 FAX 0250-24-4740 E-mail kaetsu@nigata-min.or.jp

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

プログラム統括責任者氏名	本間 丈成	指導医登録番号	第 2014-0965 号
プログラム統括責任者 部署・役職	副院長		
事務担当者氏名	渡辺 大樹		
連絡担当者連絡先	住所 〒956-0814 新潟市秋葉区東金沢 1 4 5 9 番地 1 電話 0250-22-4711 FAX 0250-24-4740 E-mail senmoni@niigata-min.or.jp		
基幹施設のカテゴリ	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input type="checkbox"/> 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名 ( 新潟医療圏 ) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ		
<p>施設要件 (各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/>のように))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない)</li> <li>■本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない</li> <li>■プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている</li> <li>■専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えば TV 会議システム等) が整備されている</li> <li>■プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている</li> <li>■研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている             <ul style="list-style-type: none"> <li>※研修用の図書冊数 ( 2656 冊 )</li> <li>※研修用の雑誌冊数 ( 67 冊 )</li> <li>※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 ( 医中誌 Pub Med Up To Date )</li> <li>※インターネット環境                 <ul style="list-style-type: none"> <li>■LAN 接続のある端末</li> <li>■ワイヤレス</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>■自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている</li> </ul> <p>具体例 ( 新潟大学総合地域医療講座と連携する )</p>			

10. 連携施設	
連携施設名	ながおか生協診療所
所在地	住所 〒940-0042 新潟県長岡市前田 1-6-7 電話 0258-39-7001 FAX 0258-30-1172 E-mail n_coopc@niigata-min.or.jp
連携施設担当者氏名	羽賀 正人
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	佐藤 夏江
連絡担当者連絡先	住所 〒940-0042 新潟県長岡市前田 1-6-7 電話 0258-38-0813 FAX 0258-30-1160 E-mail satou_n@niigata-min.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名 ( 中越医療圏 ) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	生協かんだ診療所
所在地	住所 〒940-0024 新潟県長岡市西新町 2-3-2 2 電話 0258-32-2887 FAX 0258-39-9403 E-mail kanda@niigata-min.or.jp

## 別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

連携施設担当者氏名	星野 智
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	樋口歩
連絡担当者連絡先	住所 〒940-0024 新潟県長岡市西新町2-3-22 電話 0258-32-2887 FAX 0258-39-9403 E-mail higuchi_a@niigata-min.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 中越医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	ときわ診療所
所在地	住所 〒950-0036 新潟市東区空港西1-15-17 電話 025-274-2714 FAX 025-274-2704 E-mail
連携施設担当者氏名	畠山 眞
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	大口 歩
連絡担当者連絡先	住所 〒950-0036 新潟市東区空港西1-15-17 電話 025-274-2714 FAX 025-274-2704 E-mail ishi_yu@niigata-min.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 新潟医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟県立津川病院
所在地	住所 〒950-0036 新潟市東区空港西1-15-17 電話 025-274-2714 FAX 025-274-2704 E-mail
連携施設担当者氏名	原 勝人
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	間 道夫
連絡担当者連絡先	住所 〒959-4497 東蒲原郡阿賀町津川200 電話 0254-92-3311 FAX 0254-92-4064 E-mail tur-jimutyu@peace.ocn.ne.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 新潟医療圏 ） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟大学医歯学総合病院 高度救命救急センター
所在地	住所 〒951-8520 新潟市中央区旭町通一番町754番地 電話 025-223-6161 FAX E-mail endoh@med.niigata-u.ac.jp

## 別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

連携施設担当者氏名	遠藤 裕
連携施設担当者 部署・役職	高度救命救急センター・集中治療部部长
事務担当者氏名	遠藤 裕
連絡担当者連絡先	住所 〒951-8520 新潟市中央区旭町通一番町 754 番地 電話 025-223-6161 FAX E-mail endoh@med.niigata-u.ac.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（新潟医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新津信愛病院
所在地	住所 〒956-0036 新潟市秋葉区中村 2 7 1 電話 0250-22-2161 FAX 0250-22-2466 E-mail niitsu@sin-ai.jp
連携施設担当者氏名	清水 敬三
連携施設担当者 部署・役職	事務部総務係長
事務担当者氏名	五十嵐 和代
連絡担当者連絡先	住所 〒956-0036 新潟市秋葉区中村 2 7 1 電話 0250-22-2161 FAX 0250-22-2466 E-mail niitsu@sin-ai.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（新潟医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	かえつクリニック
所在地	住所 〒956-0836 新潟市秋葉区新津東町3-4-28 電話 0250-22-5888 FAX 0250-22-5889 E-mail
連携施設担当者氏名	岡田 節朗
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	鷺尾 陽子
連絡担当者連絡先	住所 〒956-0836 新潟市秋葉区田家2-1-30 電話 0250-22-5888 FAX 0250-22-5889 E-mail osanai_k@niigata-min.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（新潟医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	とくなが女性クリニック
所在地	住所 〒950-0932 新潟市中央区長潟837-1 電話 025-286-4103 FAX 025-286-1407 E-mail
連携施設担当者氏名	徳永 昭輝
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	徳永 貴子
連絡担当者連絡先	住所 〒950-0932 新潟市中央区長潟837-1 電話 025-286-4103 FA X025-286-4107 E-mail adele_t.t@apost.plala.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（新潟医療圏） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である →□はい ■いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	あたごこどもクリニック
所在地	住所 〒940-0038 新潟県長岡市琴平1-2-1 電話 0258-36-5810 FAX 0258-36-5833 E-mail atago_ns@niigata-min.or.jp
連携施設担当者氏名	吉川 秀人
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	岩間 真理
連絡担当者連絡先	住所 〒940-0038 新潟県長岡市琴平1-2-1 電話 0258-36-5810 FAX 0258-36-5833 E-mail atago_ns@niigata-min.or.jp

別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

連携施設の所在地	二次医療圏名（ 中越医療圏 ） 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
----------	---

10. 連携施設	
連携施設名	生協こどもクリニック
所在地	住所 〒940-0038 新潟県長岡市沢田1-1-20 電話 0258-33-7131 FAX 0258-33-7137 E-mail n_coopc_childclinic@niiagta-mi.or.jp
連携施設担当者氏名	井埜 晴義
連携施設担当者 部署・役職	所長
事務担当者氏名	古塩 民恵
連絡担当者連絡先	住所 〒940-0038 新潟県長岡市沢田1-1-20 電話 0258-33-7131 FAX 0258-33-7137 E-mail n_coopc_childclinic@niiagta-mi.or.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 中越医療圏 ） 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	新潟大学総合地域医療学講座
所在地	住所 〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757 電話 025-227-2005 FAX E-mail seita.iguchi@me.com
連携施設担当者氏名	井口 清太郎
連携施設担当者 部署・役職	教授
事務担当者氏名	松山 景子
連絡担当者連絡先	住所 〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757 電話 025-227-2005 FAX 0258-30-1160 E-mail k-mat@med.niigata-u.ac.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（ 新潟医療圏 ） 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

## 総合診療専門研修 I

### 総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
15	0212515	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	ながおか生協診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
15	0213067	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	生協かんだ診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
15	0120544	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	ときわ診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	ながおか生協診療所		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (    ) 床    診療科病床数 (    ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (    )		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( 3 ヶ月    )		
常勤指導医氏名 1	羽賀 正人	指導医登録番号	(第 Z-031 号)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(    )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(    )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b> <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b> 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている  学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ( 小児科診療所にて週 1 回研修を行う    ) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 (    ) 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 (    )			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (在宅患者は 24 時間連携する訪問看護ステーションを連携が取れ、必要があれば臨時往診する体制を取っている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来患者、訪問診療の患者とも緩やかな主治医制と取り、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問看護では主治医意見書や他職種とのやり取りは担当する医師が主体となって継続的に関わる体制をとっている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (多様な年齢層に対し、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、緩和ケアを含めた訪問診療を提供できる診療体制をとっている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (第二次、三次医療機関との紹介、逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また、同一法人内の介護事業所を始め、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積			

極的に行っている)			
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（医療生協の診療所であり、組合員を中心に地域住民が家族単位で利用することも多い）			
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法（医療生協の診療所として、組合員・地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる）			
■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、慢性疾患、緩和ケアを含め 112 件の在宅患者に対応している。訪問看護うステーションと連携し、随時対応を行っている）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■のべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ( )			
■のべ訪問診療数 20 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 ( )			
研修中に定期的に行う教育			
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 (朝カンファレンス、ビデオレビューによるフィードバック )			
他の施設で行う教育・研修機会 (医師会や病院等で行われる学習会に参加する。医療生協主催の学術集會に参加する。 )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( 0 )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

#### 総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	生協かんだ診療所		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	■診療所 □病院 施設が病院のとき → 病院病床数 ( ) 床 診療科病床数 ( ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合 □ 都道府県の定めるへき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	□なし ■あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( 3 ヶ月 )		
常勤指導医氏名 1	星野 智	指導医登録番号	( 第 Z 030 号 )
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	( )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	( )
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど			
■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			

<p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>
<p><b>施設要件</b> 後期高齢者診療 ■研修診療科において患者の10%以上が後期高齢者である</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）  <input type="checkbox"/> 研修診療科において患者の5%以上が学童期以下である  <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は5%未満だが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する  <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は5%未満だが、近隣の施設において経験を補完する  具体的には、どの施設でどのような頻度で補完するか（ 小児科診療所にて週1回研修を行う ）  <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は5%未満であり、近隣の施設において経験を補完することができない  経験を補完できない理由（ ）  学童期以下の患者の診療実績（ ）  学童期以下の患者の診療を増やすための工夫（ ）</p>
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている  具体的な体制と方略（ 在宅患者は24時間連携する訪問看護ステーションと連絡が取れ、必要があれば臨時往診する体制をとっている。）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する  具体的な体制と方略（ 外来患者、訪問診療の患者とも緩やかな主治医制をとり、定期受診は予約を入れることで継続的に関わり、訪問患者では主治医意見書や他職種とのやり取りは担当する医師が主体となって継続的に関わる体制をとっている。）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当  具体的な体制と方略（ 多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、緩和ケアを含めた訪問診療を提供できる診療体制をとっている。）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する  具体的な体制と方略（ 第二次、三次医療機関との紹介、逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また同一法人内の介護事業所をはじめ、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する  具体的な状況（ 医療生協の診療所であり、組合員を中心に地域住民が家族単位で利用することも多い。）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する  具体的な内容と方法（ 医療生協の診療所として、組合員・地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる。）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。  それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、慢性疾患、緩和ケアを含め51件の在宅患者に対応している。訪問看護ステーションと連携し、随時対応を行っている。）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、<input type="checkbox"/>を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上/月  <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している  具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上/月  <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している  具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会  （朝カンファレンス、ビデオレビューによるフィードバック）  他の施設で行う教育・研修機会  （医師会や病院等で行われる学習会に参加する。医療生協主催の学術集会に参加する。）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 0 ）  プログラム名（ ）  プログラム名（ ）  プログラム名（ ）</p>

研修施設名	ときわ診療所		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 (    ) 床    診療科病床数 (    ) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 (    )		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( 3ヶ月 )		
常勤指導医氏名 1	畠山 真	指導医登録番号	(第 2014-0192 号)
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	(    )
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	(    )
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<b>研修の内容</b> <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
<b>施設要件</b> 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている  学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input checked="" type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ( 小児科診療所にて週 1 回研修を行う ) <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 (    ) 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 (    )			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (在宅患者は 24 時間連携する訪問看護ステーションを連携が取れ、必要があれば臨時往診する体制をとっている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来患者、訪問診療の患者とも緩やかな主治医制をとり、継続的に関わり、訪問看護では主治医意見書や他職種とのやり取りは担当する医師が主体となって継続的に関わる体制をとっている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 ( 多様な年齢層に対し、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、緩和ケアを含めた訪問診療を提供できる診療体制をとっている)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (第二次、三次医療機関との紹介、逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また、同一法人内の介護事業所を始め、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。近隣地域の開業医、介護・福祉機関とのネットワークを構築し、所長がその事務局的役割を担			

っている)
<b>■家族志向型ケア</b> ：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（新潟勤労者医療協会健康友の会が存在し、会員を中心に地域住民が家族単位で利用することも多い）
<b>■地域志向型ケア</b> ：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（上記友の会の班や地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる）
<b>■在宅医療</b> ：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、慢性疾患、緩和ケアを含め 34 件の在宅患者に対応している。訪問看護ステーションと連携し、随時対応を行っている）
診療実績（各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））
<b>■のべ外来患者数</b> 400 名以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）
<b>■のべ訪問診療数</b> 20 件以上／月 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（
研修中に定期的に行う教育
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （朝カンファレンス、カルテチェック ） 他の施設で行う教育・研修機会 （医師会や病院等で行われる学習会に参加する。山ノ下ネットが主催する学習会や症例検討会に参加する。 ）
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 0 ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）

## 総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	新潟県立津川病院		
診療科名	（ 内科 ） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数（67）床 診療科病床数（67）床		
総合診療専門研修 I における研修期間	（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input checked="" type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である その場合のサポート体制（ ）		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）		
常勤指導医氏名 1	原 勝人	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））			
<b>研修の内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事			

<p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>
<p><b>施設要件</b> 後期高齢者診療 ■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている</p> <p>学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ） ■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている □学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する □学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（小児科診療所にて週1回研修を行う） □学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 （ ） 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 （ ）</p>
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略（在宅患者は24時間連携する訪問看護ステーションを連携が取れ、必要があれば臨時往診する体制をとっている）</p>
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略（外来患者、訪問診療の患者とも緩やかな主治医制をとり、継続的に関わり、訪問看護では主治医意見書や他職種とのやり取りは担当する医師が主体となって継続的に関わる体制をとっている）</p>
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（多様な年齢層に対し、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、緩和ケアを含めた訪問診療を提供できる診療体制をとっている）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（第二次、三次医療機関との紹介、逆紹介はスムーズに行われ、必要時には電話での相談を行える関係性がある。また、同一法人内の介護事業所を始め、地域の介護・福祉機関との連携、情報交換や相談を積極的に行っている。近隣地域の開業医、介護・福祉機関とのネットワークを構築し、所長がその事務局的役割を担っている）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（新潟勤労者医療協会健康友の会が存在し、会員を中心に地域住民が家族単位で利用することも多い）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容与方法（上記友の会の班や地域住民を対象とした健康づくり（保健予防活動）にも積極的に取り組んでいる）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、慢性疾患、緩和ケアを含め34件の在宅患者に対応している。訪問看護ステーションと連携し、随時対応を行っている）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略 （ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （朝カンファレンス、カルテチェック ） 他の施設で行う教育・研修機会 （医師会や病院等で行われる学習会に参加する。山ノ下ネットが主催する学習会や症例検討会に参加する。 ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>

本プログラム以外の参加プログラム数 ( 2 )
プログラム名 (新潟大学 )
プログラム名 (新潟市民病院総合診療専門研修プログラム )
プログラム名 ( )

## 総合診療専門研修 II

### 総合診療専門研修 II の施設一覧

都道府県コード	医療機関コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
15	0121856	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	下越病院	■基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

### 総合診療専門研修 II を行う施設ごとの詳細

研修施設名	下越病院		
診療科名	( 内科 ) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 ( 261 ) 床 診療科病床数 ( 20 ) 床		
総合診療専門研修 II における研修期間	( 6 ) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるへき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ( )		
研修期間の分割	■なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ( )		
常勤指導医氏名 1	本間 丈成	指導医登録番号	(第 2014-0965 号)
常勤指導医氏名 2	河内 邦裕	指導医登録番号	(第 2014-1102 号)
常勤指導医氏名 3	岡島 英雄	指導医登録番号	(第 2014-1097 号)
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
<b>施設要件</b>			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること			
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (入院・外来ともに高齢者の割合が多く、また障害者等施設、通所リハビリを有するなど、介護を要する虚弱高齢者をフォローしている )			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 ( 複数の健康問題を抱える患者に対して、主治医として積極的に関わることができる )			

<b>■必要に応じた専門医との連携</b> 具体的な体制と方略（ 医局がひとつにまとまっていることもあり、各科の垣根が低く、いつでもコンサルテーションが可能となっている ）
<b>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応</b> 具体的な体制と方略（ 臨床8分割シートを作成し、多様性のあるカンファレンスを行っている ）
<b>■癌・非癌患者の緩和ケア</b> 具体的な体制と方略（ 医師、看護師、薬剤師、栄養士、セラピストで構成する緩和ケアチームがあり、困難事例への情報提供、研修会の開催等を行っている ）
<b>■退院支援と地域連携機能の提供</b> 具体的な体制と方略（ 退院支援チームがあり、退院後も継続するであろう療養上の問題を入院早期からアセスメントを行っている。医療福祉連携課があり、看護師と複数の社会福祉士で調整にあっている ）
<b>■在宅患者の入院時対応</b> 具体的な体制（ 自院の在宅患者のみならず、関連診療所でフォローしている在宅患者の増悪時にも積極的に受け入れている ）
<b>外来診療：以下の診療全てを行っていること</b> <b>■救急外来及び初診外来</b> 具体的な体制と方略（ 救急外来・初診外来が担当制により終日設けられており、定期的に経験することができる。新潟市内の内科、小児科輪番、旧三市中蒲原郡地域の病院輪番も担当している）
<b>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者</b> 具体的な体制と方略（ 一般外来は臓器別に別れておらず、様々な症例を担当することができる。 ）
<b>■よくある症候と疾患</b> 具体的な体制と方略（ 地域の一次・二次診療を担う病院であり、頻度の高い症例を担当することができる ）
<b>■臨床推論・EBM</b> 具体的な体制と方略（ 全医師対象のカンファレンス、ガイドライン、文献検索等の用意を利用の指導 ）
<b>■複数の健康問題への包括的なケア</b> 具体的な体制と方略（ コメディカルスタッフと気軽に相談できる体制があり、病棟でのカンファレンスでも様々なケースの検討や社会資源の活用等を議論している ）
<b>■診断困難患者への対応</b> 具体的な体制と方略（ 外来カンファレンス、専門医へのコンサルテーション、必要時は三次医療機関に紹介している ）
<b>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</b>
<b>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上／月</b> <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
<b>■当該診療科における入院患者総数 20件以上／月</b> <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）
<b>研修中に定期的に行う教育</b>
当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （各種カンファレンス、ビデオレビューによるフィードバック、カルテチェック ）
他の施設で行う教育・研修機会 （ 医師会や病院で行われる学習会に参加する。 ）
<b>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</b>
本プログラム以外の参加プログラム数 （ 1 ） プログラム名（ 新潟大学総合診療専門医専門研修プログラム ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

<b>領域別研修：内科</b>			
研修施設名	下越病院	都道府県コード 15	医療機関コード 0121856
領域別研修（内科）における研修期間		（12）カ月	
指導医氏名	末武修史 山川良一 小川智 粟森和明 川上明男 原田学		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	総合内科専門医		



別添 1 専門研修プログラムの概要と診療実績

指導医氏名	遠藤 裕 本田 忠幸 新田 正和	有する専門医資格 救急科指導医・専門医	専従する部署 高度救命救急センター
□研修期間 ( 3 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
診療実績 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000 件以上/年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略 ( )			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数 ( 1 )			
プログラム名 ( 新潟大学救急科専門医養成プログラム )			
プログラム名 ( )			
プログラム名 ( )			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること  
 ※救急科研修をカリキュラム制での実施を希望する場合は、その条件 (2 ページ 「4 概要 D. ローテーションのスケジュールと期間」参照)を確認したうえで、具体的にどのような研修を行うのか、別途説明した文書を添付してください。(A4で1枚程度、書式自由) 文書には、プログラム制では実施できない合理的な理由と、プログラム制と同等の研修経験・指導の質を担保するための工夫に関する記載も含めるようにしてください。

その他の領域別診療科

<b>領域別研修：精神科</b>			
研修施設名	新津信愛病院	都道府県コード 15	医療機関コード 0121807
指導医氏名	清水 敬三	有する専門医資格 (精神科専門医 )	専従する部署 ( 診療部 )
□研修期間 ( 2 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■ (精神科) 領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる			
■ ( 精神 ) 科常勤医がいる。 ( 5 ) 名			

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

その他の領域別診療科

<b>領域別研修：産婦人科</b>			
研修施設名	とくなが女性クリニック	都道府県コード 15	医療機関コード 0121443
指導医氏名	徳永 輝昭	有する専門医資格 (日本産婦人科学会専門医)	専従する部署 ( 診療部 )
□研修期間 ( 1 ) カ月			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>研修の内容</b>			
■ 総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な診療を経験する			

**施設要件**（下記のいずれかを満たす）

- （産婦人科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる
- （産婦人科）科常勤医がいる。（ 1 ）名

※その他の診療科が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

## その他の領域別診療科

領域・分野：外科			
研修施設名	下越病院		
指導にあたる医師名	亀村 綾	有する資格（ ）	専従する部署（ 診療部 ）
□研修期間 （ 2 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している</li> <li>■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：外科疾患への対応を習得する）</li> </ul>			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる</li> <li>■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる</li> </ul>			

## その他の領域別診療科

領域・分野：整形外科			
研修施設名	下越病院		
指導にあたる医師名	有井 陽之介	有する資格（ 整形外科専門医 ）	専従する部署（ 診療部 ）
□研修期間 （ 1 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している</li> <li>■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：整形外科疾患への対応を習得する）</li> </ul>			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる</li> <li>■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる</li> </ul>			

## その他の領域別診療科

領域・分野：慢性疾患・運動療法・労働災害			
研修施設名	かえつクリニック		
指導にあたる医師名	岡田 節郎	有する資格（ 総合診療指導医 ）	専従する部署（ 診療部 ）
□研修期間 （ 2 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している</li> <li>■ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：運動療法を含めた慢性疾患の管理 労働災害への対応）</li> </ul>			
指導体制			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる</li> <li>■ 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる</li> </ul>			

その他の研修施設（例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修）

<b>領域・分野：臨床研究等</b>			
研修施設名	新潟大学総合地域医療学講座		
指導にあたる医師名	井口 清太郎	有する資格（ 総合内科専門医 ）	専従する部署（ ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：臨床研究・公衆衛生）			
<b>指導体制</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる <input checked="" type="checkbox"/> 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

その他の研修施設

<b>領域・分野：小児科（総合診療Ⅰ）の補完</b>			
研修施設名	生協こどもクリニック		
指導にあたる医師名	井埜 晴義	有する資格（ 小児科専門医 ）	専従する部署（ 診療部 ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：小児科疾患への対応を習得する）			
<b>指導体制</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる <input checked="" type="checkbox"/> 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

その他の研修施設

<b>領域・分野：小児科（総合診療Ⅰ）の補完</b>			
研修施設名	あたごこどもクリニック		
指導にあたる医師名	吉川 秀人	有する資格（ 小児科専門医 ）	専従する部署（ 診療部 ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>研修の内容</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性：小児科疾患への対応を習得する）			
<b>指導体制</b>			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる <input checked="" type="checkbox"/> 研修修了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&amp;ペーストして記載すること

